

本校授業改善の視点

東久留米市立南中学校

1 はじめに

本校では、教科指導はもとより、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等、全教育活動において、「愛の心を育てよう」という教育目標のもと、自分を大切にするとともに、他の大切さも認める生徒の育成をねらいとして取り組んできた。また、平成22年度から、朝学習モジュールの実施に向けての取り組みを始め、平成23年度から10分×120回の朝学習モジュールを本格実施し、基礎学力の定着を図る取り組みを行っている。

平成23年度に全教科統一の生徒による授業評価を新たに作成し、平成24年度から、授業改善推進プランに評価結果を反映させる取り組みを実施している。

学習指導要領に示されている「生きる力の育成」に向けて、「言語活動」に重きを置き、「読解力」「思考力」「表現力」、確かな「知識」理解と現実への「活用力」の育成などの指導改善を進めていく必要がある。

本校生徒の実態を分析すると、「はじめに授業に取り組む姿勢が定着しているが、全体を通してまだまだ発言や発表が少ない」という点が挙げられる。一人一人の生徒に、基礎基本が定着しているか、自分の思いや考えを発表できているか、周囲は一人一人の意見や考えをしっかりと聴いているか、間違いや失敗を互いに受け入れ、よりよい意見を考える創造性を発揮できているか、また、それらを豊かに表現できているかなど、解決しなければならない課題がある。その基盤として、教師と生徒の信頼関係、生徒相互の豊かな人間関係を築き、生徒たちが生き生きと学び、活動できる学級づくり・授業づくりを行う。以上を踏まえて引き続き本年度の授業改善の視点を以下の三点に据える。

2 授業改善の視点

- ① 基礎基本の定着
- ② 発言力、コミュニケーション能力の伸張と高い創造性を発揮し表現できる授業づくり
- ③ 自他共に尊重し、認め合い、喜び合い、高め合える学級づくり・授業づくり

3 授業改善の方針

- ① 基礎基本の定着に向けての取り組みを増やす。
- ② 質の高い課題設定を行い、生徒に考えさせ、発言、発表させる機会を増やす。
- ③ 日常的にグループワークを導入し、尊重し学び合い、高め合う機会を増やす。

4 具体的な指導

- ① 5教科で朝学習モジュールを実施し、基礎基本の定着を図る。
- ② 自学自習の習慣を身に付けさせる。
- ③ グループ学習を取り入れ、生徒相互に学び合い課題を解決できるようにする。同時に意見や発想の違いを取り入れ、よりよい意見や考えを共有できるようにする。
- ④ 学習の成果を発表する機会をもうける。学習した成果をレポートにまとめる。学級、学年で発表する。文化発表会で発表する等で表現力を高める。
- ⑤ ディベートやロールプレイ等、ルールのある討論ゲームや役割演技等で聴く力と表現力を育てる。

これらを教科、道徳、学級活動等、日々の指導の中で活用、工夫することにより、生徒の活発な活動を促す指導へと、授業改善を実現する。